港区志田町保育室
2026年3月1日発行
園長　青木三佐子

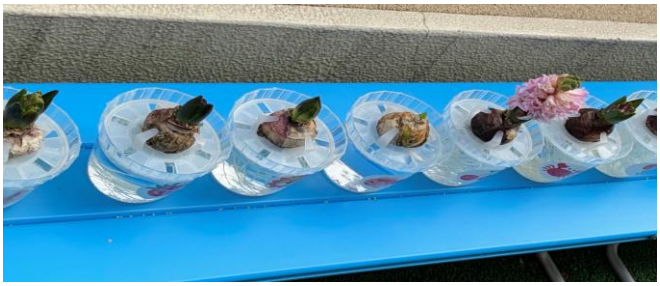
　弥生三月、ようやく春風が心地よく感じられるようになりました。日本の伝統的な文化のひな祭りがやってきます。子どもを思う親心、生まれて来てくれたことへの感謝、健やかに幸せな人生を歩んでほしいという願い、この心が「ひなまつり」というカタチで続いていますね。ひな人形は平安時代の公家社会の結婚式を模したと言われています。志田町も七段飾りを飾り子ども達の成長をお祝いしています。

　寒い時期に全員で育てた水栽培のヒヤシンスは花が咲き終わり、園庭に芽を出したちゅうりっぷの背がぐんぐん伸びて、咲く時期を待っています。早く大きく花開いてほしい気持ちと、まだまだゆっくりでいいよという気持ちがあります。なぜなら咲いてしまう頃にはひまわり組とお別れになるから。毎年巡りくる三月には、思い出のアルバムを広げて懐かしさと共に、お別れの寂しさもあります。そして全ての園児の成長した姿に１年を振り返り、感動で胸がいっぱいになるのは皆さんも同じ気持ちではないでしょうか。

　一年最後の日々も子ども達の安全安心を最優先に考え、子どもの期待を後押ししながら楽しい思い出を沢山作っていきます。今年度も、保育園の運営に保護者の皆様のご理解ご協力を頂きまして無事に過ごすことが出来ました、あらためて感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

人権教育（性の教室）６月の写真

すくわくプログラムで育てたヒヤシンス



園庭の水仙のはな　⇒
春を告げる　希望

ひな祭り制作